



第 2 章

江東区の特徴

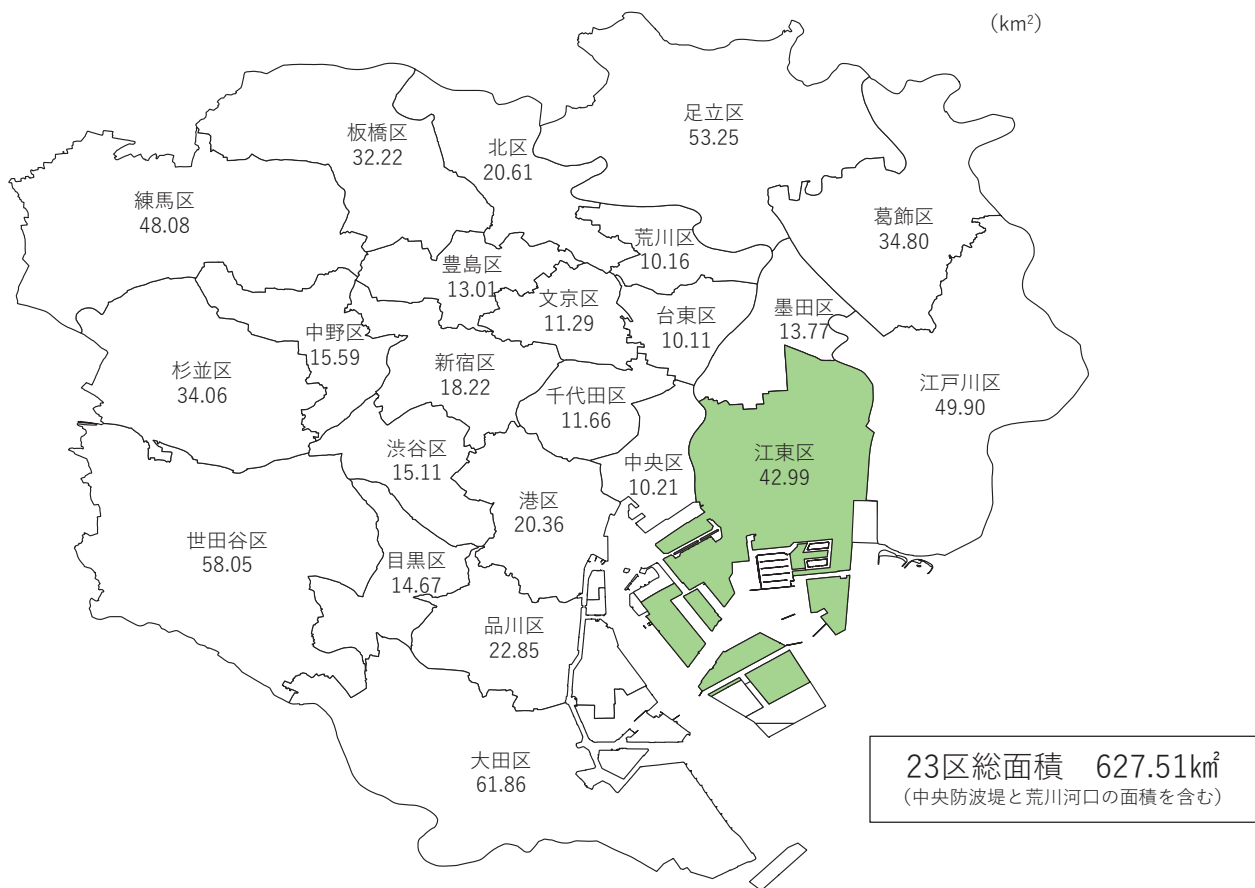
第2章 江東区の特徴

1 江東区の概要

本区は、江戸川区、墨田区、中央区、港区、品川区、大田区の各区に隣接し、東に荒川、西に隅田川、南は東京湾に面しており、歴史的に常に水と関わりを持って発展を遂げてきた地域です。さらに総延長 50km 以上の河川・運河が区を縦横に走り、また親水公園などが整備されており緑も多く、都心にありながら豊かな水と緑に囲まれた癒しの空間が広がる『水彩都市』です。

本区は、江戸時代初期に始まった埋め立て工事によって次第に土地が形成され、さらに明治以降も海岸の埋め立て工事が継続して行われてきました。令和 2（2020）年には中央防波堤埋立地「海の森」が本区に帰属し、面積は 42.99 km²となりました。

図表 江東区の位置



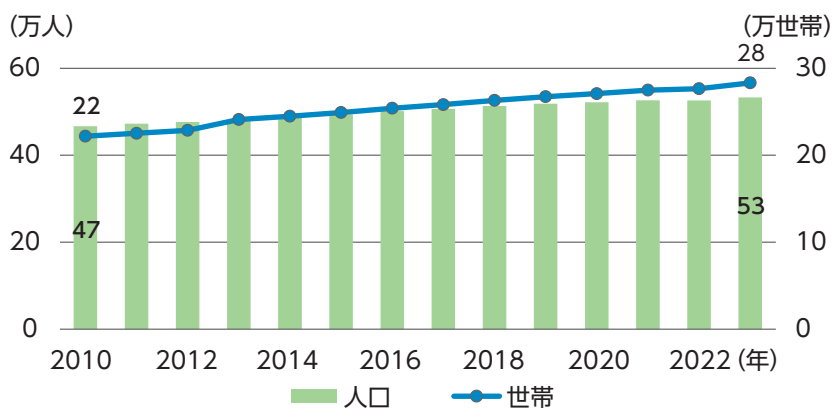
(出典) 令和 5 年全国都道府県市区町村別面積調 (7 月 1 日時点)

2 江東区の現況

2-1 人口

本区の人口及び世帯数はともに増加傾向にあり、平成 22（2010）年では人口、世帯がそれぞれ約 47 万人、約 22 万世帯だったのに対し、令和 5（2023）年には約 53 万人、約 28 万世帯に増加しています。本区の人口増加は都内でもトップクラスの高さになっています。

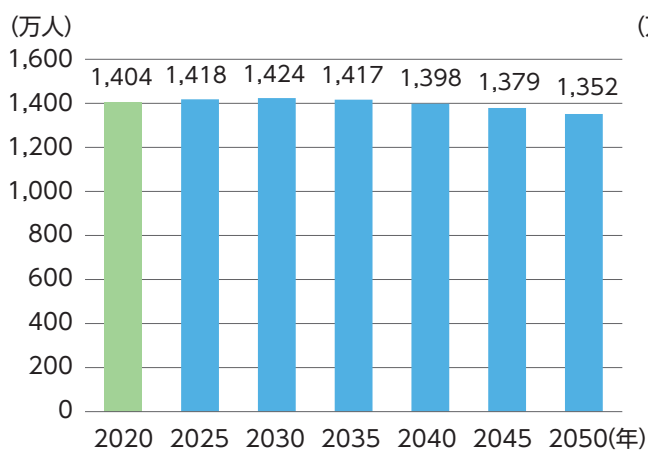
図表 江東区の人口及び世帯数の推移



(出典) 江東区 世帯と人口 (各年 1 月 1 日現在)

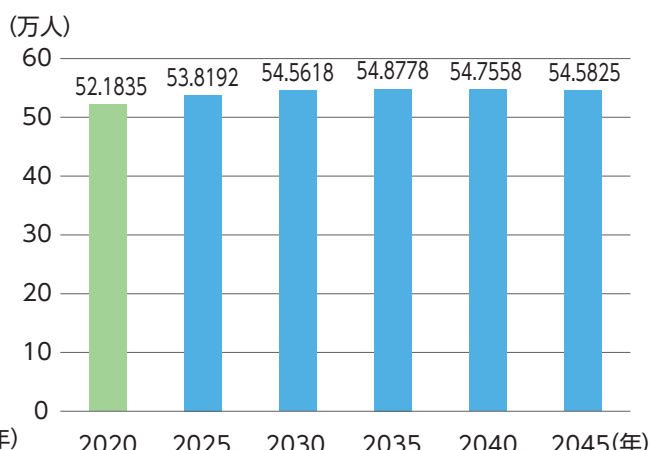
東京都の将来人口推計によると、東京都の将来人口は 2030 年をピークに減少傾向がみられます。本区の人口は 2035 年頃をピークとし、その後、減少に転じる見込みです。

図表 東京都の将来人口推計



(出典) 2020 年：「令和 2 年国勢調査 (確報値)」
2025～2050 年：東京都総務局統計部
「東京の人口予測」

図表 江東区の将来人口推計



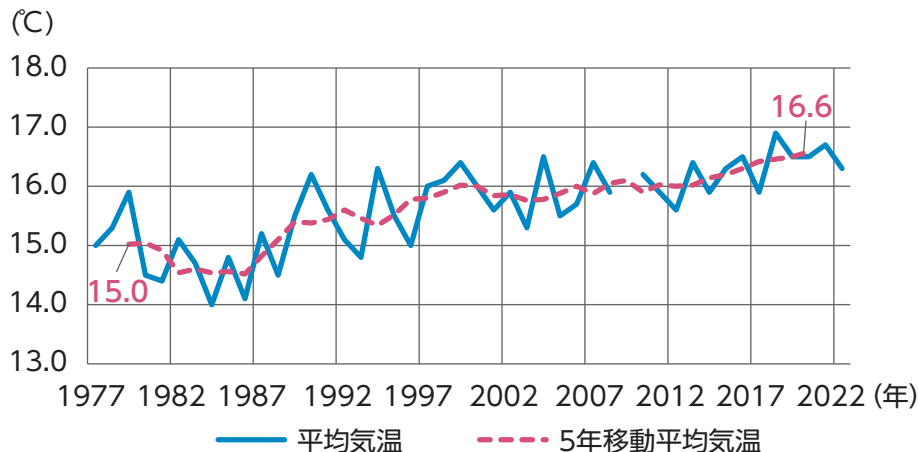
(出典) 2020 年：江東区の世帯と人口 (令和 2 年 1 月 1 日現在)
2025～2045 年：東京都総務局統計部「東京の人口予測」
※各区別の 2050 年の将来人口推計は公表されていない。

第2章 江東区の特徴

2-2 気温

本区の平均気温は上昇傾向にあります。5年移動平均では、昭和54（1979）年の15.0℃から令和2（2020）年の16.6℃まで、41年間で1.6℃上昇しています。

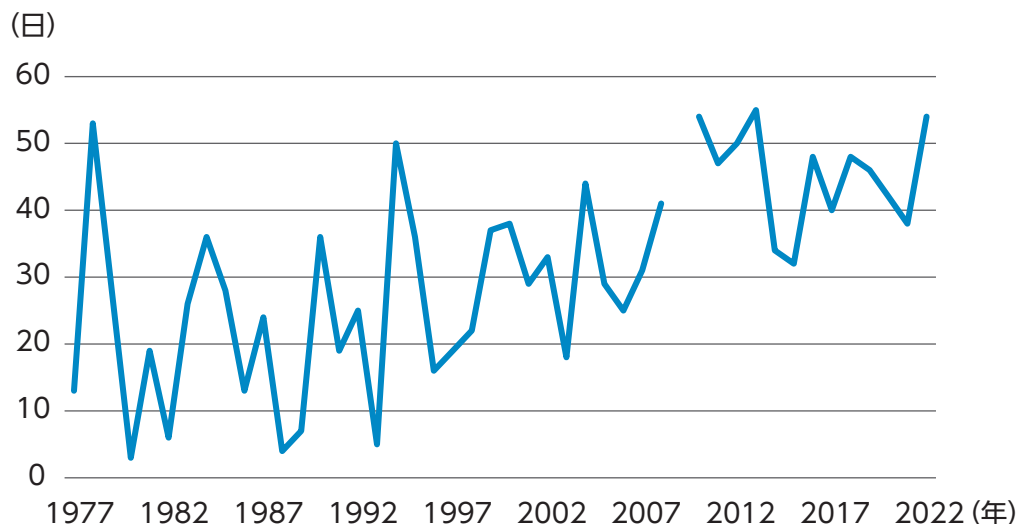
図表 江東区における気温の推移



※ 2009年については資料不足値であるため除外
※ 5年移動平均：中心となる年から前後2年を含めた5年間の平均値
(出典) 気象庁（江戸川臨海観測所）

また、近年では夏期の真夏日の日数が増加しています。真夏日とは日の最高気温が30℃以上の日のことで、1980年代（平均16.6日）に比べ、2020年代（平均44.7日）は真夏日の日数が増えています。

図表 江東区の年間真夏日日数の推移



※ 2009年については資料不足値であるため除外
(出典) 気象庁（江戸川臨海観測所）

2-3 交通

本区の公共交通網は、JR線や地下鉄、都営バス等で構成されています。

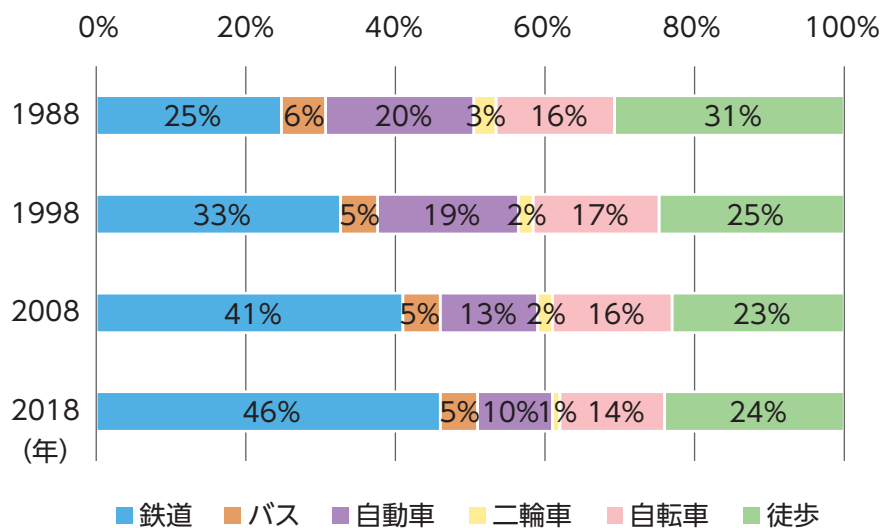
また、区内の交通利便性を大きく向上させる、地下鉄8号線（東京メトロ有楽町線）の延伸（豊洲～住吉間）は、2030年代半ばの開業が目標とされています。

主な交通手段別の分担率については、昭和63（1988）年以降鉄道の分担率が増加し、自動車及び二輪車の分担率が減少しています。

図表 江東区内の主な交通網



図表 主な交通手段別分担率の推移 (江東区内の移動者)



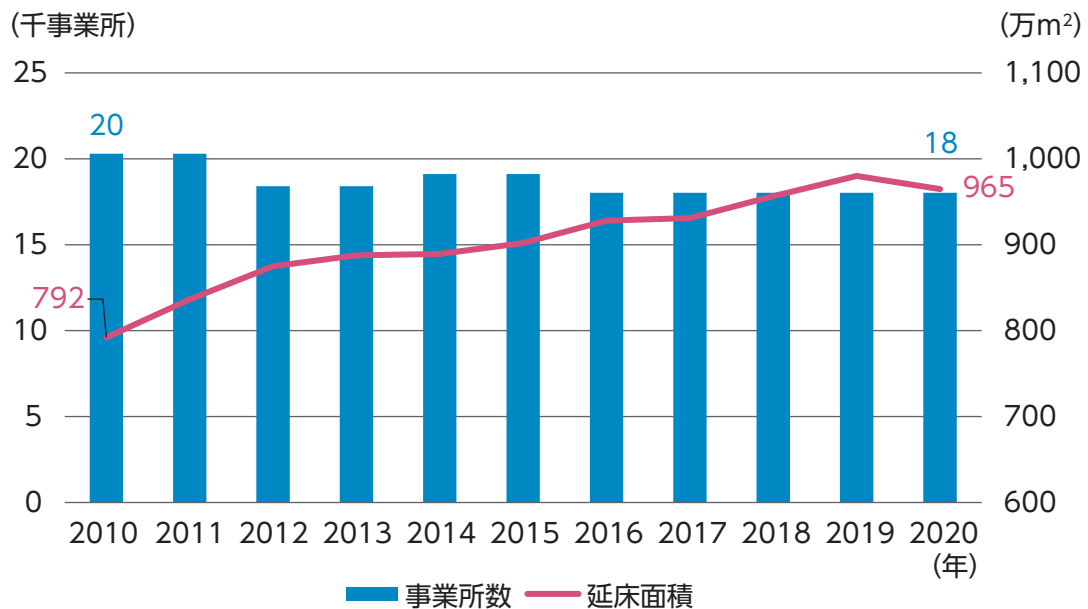
(出典) 第6回東京都市圏パーソントリップ調査

第2章 江東区の特徴

2-4 事業所

事業所数は、平成 22（2010）年から令和 2（2020）年までの 10 年間で約 10%の減少がみられます。一方、事業所の延べ床面積は平成 22（2010）年から令和 2（2020）年までの 10 年間で約 20%増加しています。

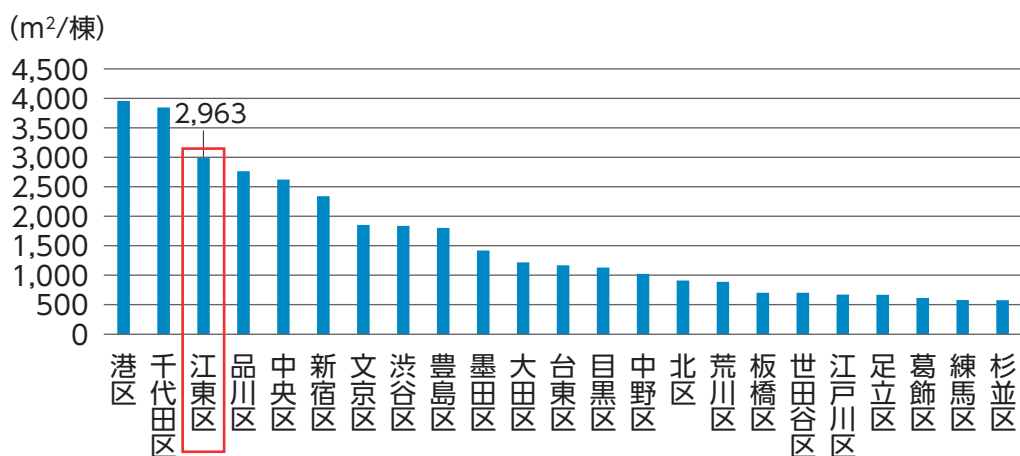
図表 江東区における事業所数と延べ床面積の推移



(出典) 東京都統計年鑑

また、本区の業務系建築物の 1 棟当たりの延べ床面積は 23 区中 3 位となっており、事業所数が減少している一方、業務系建築物の延べ床面積が増加していることから、業務系建築物に占める大規模事業所の割合が高くなっています。

図表 特別区における業務系建築物の1棟当たり延べ床面積（2020年度）

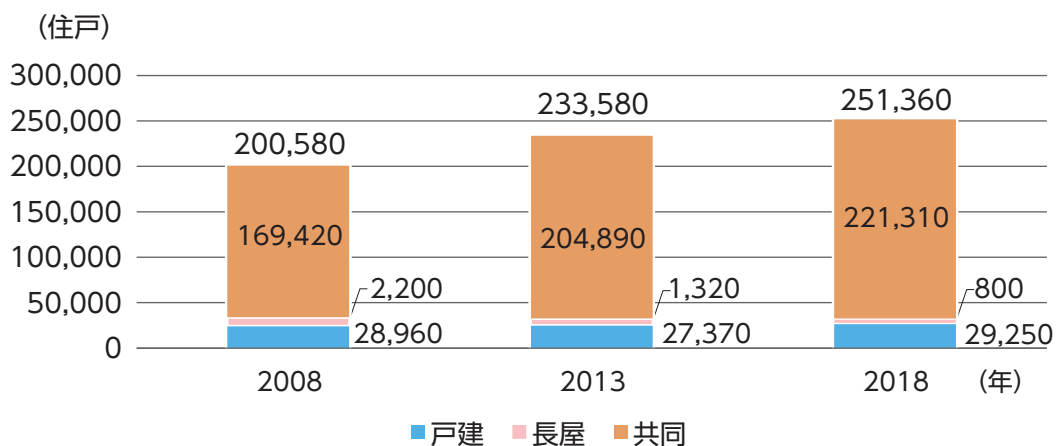


(出典) 東京都統計年鑑

2-5 住宅

住宅数は平成 20 (2008) 年から平成 30 (2018) 年までの 10 年間で約 25% 増加しており、増加分のほとんどが共同住宅となっています。平成 30 (2018) 年における住宅に占める共同住宅の割合は 88% と大半を占めています。

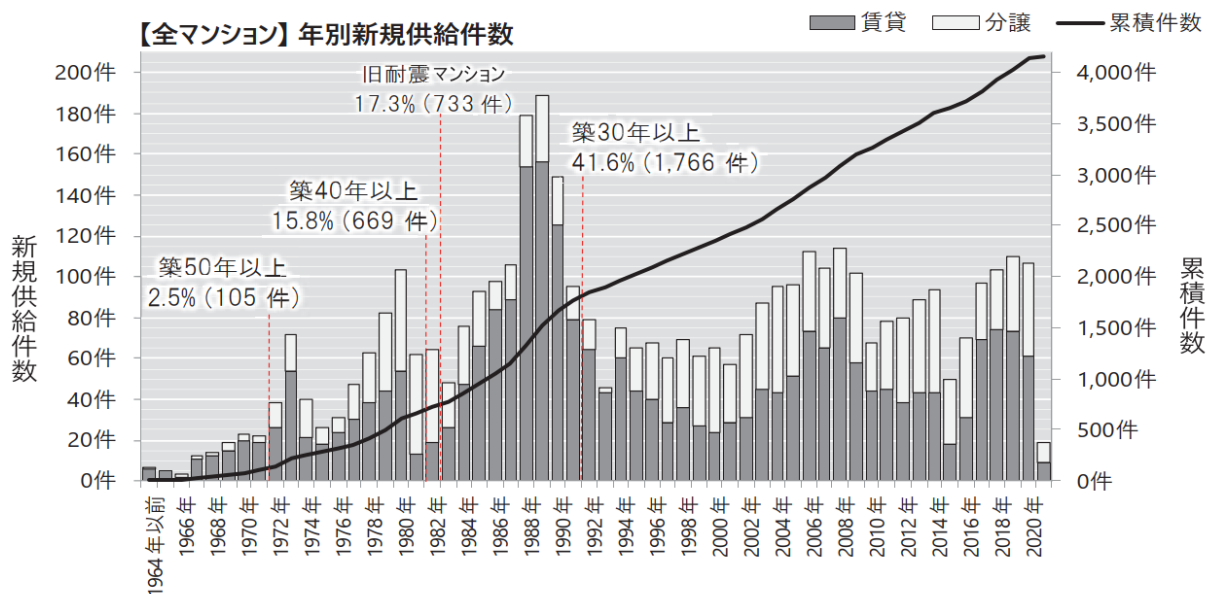
図表 江東区における住宅数の推移



(出典) 総務省「住宅・土地統計調査」

本区では 1970 年代以降、マンションの建設が盛んになり、各年の建築件数は、1980 年代半ばから 1980 年代末にかけて急激に増加し、その後も毎年新たなマンションが建築されています。また、区内のマンション 4,242 件のうち、築 30 年以上を迎えるマンションは 41.6% を占めています。

図表 年別新規マンションの供給件数



(出典) 江東区マンション実態調査報告書 (令和 4 年 3 月)

第2章 江東区の特徴

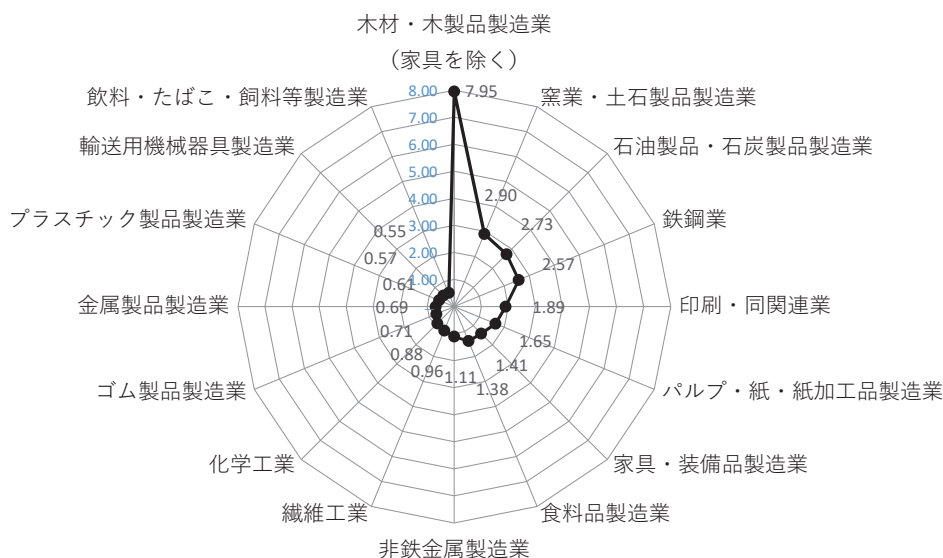
2-6 産業

本区の特徴的な産業としては、木材・木製品製造業（家具を除く）、窯業・土石製品製造業、石油製品・石炭製品製造業、鉄鋼業、印刷・同関連業などがあります。特に江戸時代から木材のまちとして木材・木製品製造業（家具を除く）が盛んであったことから、他の産業に比べ特化係数が高くなっています。

本区の製造品出荷額は、印刷・同関連業（633億円）、食料品製造業（431億円）、化学工業（342億円）の順となっています。

建設業における従業者数は、平成21（2009）年には20,379人でしたが、平成26（2014）年は22,894人、令和2（2020）年は24,036人と増加傾向となっています。

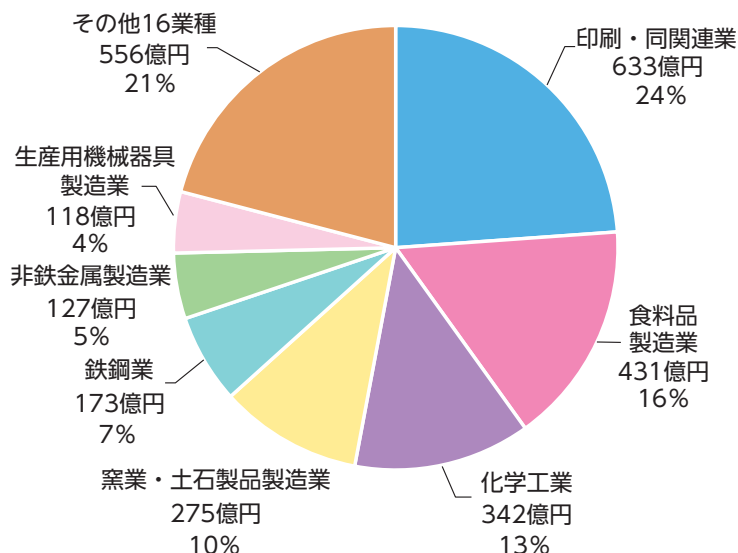
図表 江東区の製造業における産業分類別事業所数の特化係数



※産業分類別事業所数の特化係数：産業分類ごとの事業所数構成比を都全体の構成比で除した値。
 特化係数が1を超えれば、その産業分類は都全体の水準を上回る水準で集積していることを示す。
 ※図中記載の産業分類は特化係数0.5以上のもの。

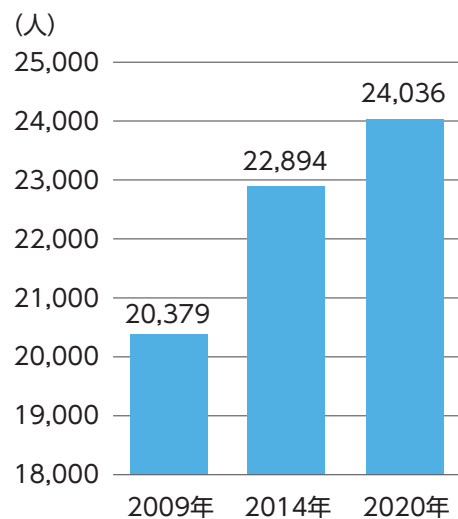
資料：東京都総務局「2020 東京の工業（2020年工業統計調査報告）」より
 （出典）江東区データブック2023

図表 江東区の製造品出荷額の内訳（2020年度）



（出典）経済産業省「工業統計調査」

図表 江東区の建設業における従業者数の推移



（出典）総務省「経済センサス」